

第 22 期火災予防審議会第 4 回地震対策部会開催結果概要

1 開催日時

平成 28 年 9 月 27 日（火） 15 時 00 分から 17 時 00 分まで

2 場所

J A ビル 3 階 302 会議室（東京都千代田区大手町一丁目 3 番 1 号）

3 出席者

(1) 委員（13 名、敬称省略、五十音順）

池上委員、市古委員、糸井川委員、梅村委員（代理出席）、荻澤委員、大佛委員、熊谷委員、
10 小林委員、坂本委員、杉谷委員、玉川委員、中林会長、平田委員

(2) 東京消防庁関係者（9 名）

防災部長、防災部参事、震災対策課長、防災部副参事、防災調査係長、防災調査係 4 名

4 議事

(1) 地震対策部会第 3 回部会、地震対策部会第 5 回、第 6 回小部会の開催結果概要について

(2) 審議事項

ア 本審議における検討の流れについて

イ PDCA サイクルを意識した防火防災訓練について

ウ 実地検証の進め方と実施計画について

エ 答申の構成案について

20 5 配布資料

(1) 地部資料 4-1・・・第 22 期火災予防審議会第 3 回地震対策部会開催結果概要（案）
第 22 期火災予防審議会地震対策部会第 5 回小部会開催結果概要
第 22 期火災予防審議会地震対策部会第 6 回小部会開催結果概要（案）

(2) 地部資料 4-2・・・本審議における検討の流れ

(3) 地部資料 4-3・・・PDCA サイクルを意識した防火防災訓練

(4) 地部資料 4-4・・・実地検証の進め方と実施計画

(5) 地部資料 4-5・・・答申の構成案

(6) 参考資料 1・・・深川消防署防火防災訓練実地検証結果

(7) 参考資料 2・・・王子消防署防火防災訓練実地検証結果

30 6 議事概要

(1) 開会

第 3 回部会終了後から第 4 回部会までの間に、亀田委員から坂本委員へ、矢岡委員から梅村委員へ、米澤委員から荻澤委員へ交代した旨及び東京消防庁関係者として震災対策課長が福永から山本に、防災部副参事が山本から高宮に交代した旨を事務局より報告した。

(2) 議事

ア 地震対策部会第 3 回部会、地震対策部会第 5 回、第 6 回小部会の開催結果概要について事務局より地部資料 4-1 について説明した。

イ 本審議における検討の流れについて

事務局より地部資料 4-2 について説明した。

40 ウ PDCA サイクルを意識した防火防災訓練について

事務局より地部資料 4-3 について説明した。

[議長]

PDCA マニュアルについては、既に作成の準備を進めているのか。

[事務局]

素案で作成し、深川と王子消防署で2回訓練した。その時に消防署担当者にマニュアルを見てもらい、それに従って実施してもらおうようにした。何の問題が発生するかを加えて、マニュアルの形を作っている。

[議長]

5 ページ表 3-1 に粗々でセグメント別のニーズ、ポイントが記載されているが、もっと細かく特徴を入れられるであろう。

10 [事務局]

現在作成中である。昨年度のアンケートの結果や統計等からどのようなセグメントの人がどこにいるのかということを図示する資料を実際に消防署へ持って行き、この中でターゲットを選んでもらいたいが、あまりデータを見てもらえなかった。消防署担当者ではデータを咀嚼してターゲットを選ぶという作業が難しい、ややこしいという印象を得た。データをそのまま出すのではなく、シンプルにする必要があると感じた。データは示す必要があるが、どのレベルで出すと使ってもらえる可能性があるか消防署担当者と議論し明らかにしていく必要がある。

[議長]

20 そのような状態であるならば、表 3-1 においてマンション居住者はタイプ A で順に小学生と同居しているがタイプ E とすると、例えば深川消防署管内ではタイプ C とタイプ D が多いというくらいのシンプルな方がよい。

[委員]

それぞれの消防署管内でどのセグメントが多いといった情報は、報告書に記載する予定か。

[事務局]

マニュアルの参考資料として記載する必要があると考えている。町丁目単位にするまたは消防署管轄単位にするかは今後検討していく必要がある。

[委員]

消防署管轄単位でよいだろう。

[事務局]

30 年数が経過した後の更新のことも考慮しておきたい。可能な限り消防署担当者がイメージしやすくなるものを作成する必要があると考えており、そのためにはどのような表示でどのレベルのデータを出していくかについて、消防署担当者を確認しながら作成していく必要があると感じている。

[委員]

PDCA の計画として、一つは、同じ消火訓練でもこのように実施する方が、訓練効果が上がるというように改善していくという発想と、もう一つは、訓練の中身は今までと変えないが、教え方や訓練のやり方、どのように参加を呼びかけて、どの曜日、時間帯とか、訓練を実施するための計画を色々実施してみると、地域の特性に応じて、この街では休日よりも平日の方がベターであるとか、地域に合った訓練計画を見直して参加者を向上させて、地域にとっての訓練成果を増やしていくというような、2種類のPDCAサイクルがあるということか。

[事務局]

40 後者の方である。地域に合わせて企画していくということを考えている。その中で、対象ごとに防火防災訓練の種別ごとの消火訓練をどのように実施していくとよいということは、ノウハウが蓄積されていけば、ブラッシュアップされていくと考えている。PDCA を回していけば、防火防災訓練の種別ごとにこのようなやり方の方がこの地域の人にとって合っているというような形で防火防災訓練の種別ごとの企画も蓄積されていくと思う。

[委員]

学校教育になぞらえた場合、防火防災訓練の中身はどのくらいの科目を用意するか、これをどのように教えるかと、カリキュラムはどうするかという点と、その科目のテキストをどのように作っておけばよいかという点のそれらが上手く組み合わさると効果があがる。どの科目を用意しておくかが参加者のニーズに対応して存在し、これはすでに科目が決まっていると考えればよいか。

[事務局]

10 大枠での科目は東京消防庁で定義されている防火防災訓練の区分であるが、これによらない防火防災訓練の科目もあると考えている。深川消防署で実施した非常食講座は、今まで防火防災訓練に興味がなかった人を捕まえるために試してみたが、東京消防庁ではおそらく今までにない事例である。防火防災訓練に引っ掛けるフックとして非常食講座は機能したと考えている。

既存の科目以外も出てくると考えているので、そのようなケースも含めて共有して蓄積していくようなシステム自体をアウトプットとして考えている。既存の科目を中心としてカリキュラムを構築していくのだが、そこに既存では分類されなかった科目も上乘せできればと考えている。

[議長]

例えば消火訓練の場合、消火器や可搬ポンプを用いるものがあるが、基本的なスキルは不変であろう。ただ、消火ということの重要性を認識してもらい、火災の初期の段階で消火器を使って消火することが重要という消火訓練のスキルにアプローチするための知識の啓蒙の仕方は工夫があるということで、後者側を意図してPDCAサイクルをやっていくということである。

20 例えば非常食講座では、新しいスキルという観点ではでこういう非常食を準備しておくことが重要であるということを理解してもらい、実際に実行してもらうための啓発行為が重要である。

[委員]

1回のPDCAサイクルはどのくらいの期間と考えているか。

[事務局]

PDCAサイクルの一つのスパンとしては防火防災訓練1回分であるが、その事前準備でどのくらいの準備期間がかかるかというのが、ものによって異なる。事前準備がかからない場合は、すぐに防火防災訓練に入っていけるが、場合によってはどこに話をしてどのように調整してということが入ってくるので、一概に言えないが、1回のPDCAサイクルの期間はその準備期間による。

[委員]

30 PDCAサイクルで進めていくためには、評価と改善をしっかりとやっていくことが必要である。これまでは、計画と実施だけであったというのがある。評価と改善はどのくらいの期間をかけて誰が実施するのか。

[事務局]

評価は次に訓練を計画する人が振り返る必要があると考えられるので、防火防災訓練の担当者が何かしらの評価シートのような指標に基づいた評価を行い、次に計画する時にどうすればよいというのを残して蓄積していくイメージなので、消防署の担当者に実施してもらうことを考えている。

[議長]

40 7ページの素案で、満足度は主観であり評価が難しく、参加者にアンケートをした際に複雑な内容を聞くと答えてくれないという兼ね合いがある。中林会長が話したことであるが、スキル自身は重要であるが、指導者の話は面白くなかったというような部分までこの評価表では判別できない。マネジメント部分と実際のスキルを教えるという二つの部分があるときに、スキルを教えるフオーの部分のスキルは変わらないが、マネジメントの部分でスキルにアプローチする仕方というのが色々あり、それに対する評価がこの評価表で分かるのか。満足度を聞くということは、何が満足で何が不満かを明確にするためである。PDCAサイクルで防火防災訓練を回す時、中林会長の話の計画という段階で色々バリエーション作る企画がなされた時、実施、評価、改善の段階の何が良くて何

が悪かったのかというのがひとくくりにされて評価されている気がする。その部分の工夫が必要である。

[委員]

8 ページのフローであるが、新規参加率が高いということがメインスキームであればこれでよいが、将来的にどのようなになってもらいたいという目標に近づいたかという視点に立つ場合はこのフローでは足りない。もう一つ追加するか、このフローに組み込むかが必要であろう。こちらは数で数えられるやつでこれも重要であるのであってよいが、防火防災訓練の内容が将来的にこうなって欲しいという理想像に近づいたかということをチェックできる仕組みも必要であろう。

[事務局]

- 10 満足度においてニーズを満たしているかという評価は難しく試行錯誤している。新規参加がイメージしやすいので、それを基に作成している段階で、今後、質についても入れていく必要があると思っている。消防署との協議の中で、そのような指標も入れていければと考えている。

[議長]

例えば消火訓練一つを例に挙げても、消火器を使う、周辺の人と一緒にバケツリレーをやる、可搬ポンプを使って消火訓練をやるというような色々なレベルがある。思い付きであるが、今回は消火器を使った消火訓練で1ポイントゲット、バケツリレーで3ポイントゲット、可搬ポンプで10ポイントゲットなどと設定して、一定の消火訓練はそれでマスターしたというようなことが他の防火防災訓練でも段階を設計していくことも必要ではないか。

[事務局]

- 20 質を高める中で繰り返し参加したくなるような指標も必要であると考えている。何かしら拾える工夫ができればと思っており検討中である。

[委員]

今まではまとめた評価しかされていなかったもので、防火防災訓練を分解して評価しようと試みていることは良い。しかし、7ページのままでどのように改善してよいか分からない評価である。

5W1Hについて、計画と実施の両方でチェックしなければいけない。その結果、計画が悪かったのか、実施が悪かったのか、結果として目標、アウトプットとして何が得られたのか、例えば、5W1Hの一つ一つに対してどうであったかを評価する枠組、構造を作れば、対象の集め方か、時間か、場所かという何が問題であったかという結論に跳ね返ってくる。

- 30 この評価シートは消防署が改善のために使うものなので、評価は細かい方がよく、必要な要素として参加者に満足したかどうかだけを聞くとしても、それが全てでなく、はめ込む評価の枠組みが作れると、結局何が課題なので、ここを改善した方がよいのではということに繋がっていくと思う。どうであろうか。

[事務局]

どこと何を対比してというのが次の改善時に明確になると思うので、そのような方向で考えていく。

評価シートが詳細になると、参加者や消防署担当者の負担が大きくなるため継続しないのではという懸念がある。データ集めても分析が進まなければ意味がない。消防署担当者の分析や評価は詳細にやるようにして、参加者にはなるだけ負担がかからないように満足度が量れるような評価を議論し積み上げていきたい。

- 40 [議長]

検証項目という欄の消防署側の自己評価、広報のやり方からどうだったかなどを充実させないと、次に計画を立てる時にどういうところに気を付けなければいけないというのが分からない。検証を充実させていくシートが必要である。

大佛委員の話の、どういう能力を身に着けさせたいのかというところは、参加者側の評価でもあるが、消防署側の自己評価でもやるべきであると考えられる。

[委員]

10 満足度を細かくチェックできる項目は聞いておいたほうがよい。スキルは身に着いたか、新しい知識が身に着いたかということに分けて聞いておいた方がよい。例えば、スキルは東京防災で読んでいた内容が実際に使えるようになったということであり、知識は今まで全く見たことが無いことを知ったということである。さらに、関係性が生まれたどうかを入れてもらいたい。関係性とは、消防署と親密になったか、ターゲットとして同一である参加者は、災害時に似たような不安や困難を抱えるセクターであるため、参加者同士で会話ができたとか、同じ作業をやってコミュニケーションが図れたということ自体が満足に結び付くと思う。スキルと知識と関係性が広まったかについて評価を入れてもらいたい。

[事務局]

個人のスキルだけでなく、横の繋がりが生まれるような工夫を入れてそこを拾うようにしたい。

[委員]

防火防災訓練の評価であるが、スキルアップを目的とする部分と楽しかったというイベント性の指標が混ざるものだと思う。分けて評価する方がよい。スキルが上達したかを評価する項目に対し、楽しかった、勉強になった、交流できたという3つの軸が消防署側と参加者側で感じたことが違うことが考えられる。その3つを量った方がよい。

20 例えば、非常食講座の場合は消防署担当者がスキルアップを目指して計画したかもしれないが、参加した人は新しいことが知りたかったというイベント性の方に魅かされているかもしれないし、交流できたことが楽しかったと感じているかもしれない。そういうような分けて把握できるようなチェックができると、徐々にそのずれが計測できると思う。

[委員]

私の経験例として、防火防災訓練を見学に行った時に、消防職員は参加者に対して上手に教えていたが、訓練終了後に素早く引き上げていた。終了後に参加者が反省会をやっており、このようにやった方が良かったのではないかなどの議論がなされていた。その部分が大切だと思っている。訓練終了後の反省会まで消防職員に残ってもらえると、消防署が一番知りたい参加者の本音を拾うことができる。

[議長]

30 毎回PDCAサイクルを回した事例のデータは、他の消防署で閲覧できるようになるのか。

[事務局]

最終的にどのような形で共有するかは東京消防庁で考える必要がある。共有する必要性は感じている。カルテみたいに共有して、良い部分は上積みしていくような形で共有していくことを考えていく必要がある。

[議長]

データベースが蓄積されると、AIで相談すると回答を教えてくれるようになるかもしれない。

ウ 実地検証の進め方と実施計画について

事務局より地部資料4-4、参考資料1、参考資料2について説明した。

40 [委員]

非常食講座のケースでは不特定多数を対象、幼稚園やマンションのケースでは特定の集団を対象としていると分類できる。不特定多数への戦略的と特定の集団への戦略的は区分して考える方がよい。

[事務局]

参加者の集め方から違うので、戦略の面の対象に関わってくるので分けて考えていきたい。

[委員]

不特定多数を対象とする場合、参加した後に地域に戻ってからどのように地域防災に関わっていくかが重要である。特定の団体を対象とする場合は、これからもその集団で防災をやっていくという目的になると思う。

[委員]

10 幼稚園の場所を利用した防火防災訓練の場合は先生も参加したかどうかによって幼稚園の防災に繋がる可能性がある。幼稚園やマンションという団体、非常食講座のように一期一会で集まった人であるなど、参加者の背景が三者三様なので、それぞれに上手くやっていく方法としては、あるテーマで、地縁のない人が集まってやるということと、組織があって組織に呼びかけてそこでやるのと二つある。組織型の場合、訓練が終わって地域に戻った時にどう展開するというのがアウトプットして評価する必要があるかもしれない。

組織型は評価として、参加団体の代表の方とディスカッションすることが重要。参加者の評価だけでは不十分である。

[議長]

防火防災訓練実施後のアンケート調査も重要ではあるが、防火防災訓練終了後に参加者と消防職員が懇話し感想やニーズを拾うことも重要である。

20 参考資料1、2における評価シートのままでは、次回実施時に何を改善すればよいか生まれないので内容の改善が必要である。資料4-3のチェックシートには、参加者へのアンケートの評価だけでなく、防火防災訓練を主催する消防署側自身をどのように評価していくのかという部分が必要である。

[委員]

防火防災訓練内容の評価について、非常食については講座の内容についての評価がそれなりに出ている。一方、幼稚園の方は参加有無に焦点が当たりすぎているので、内容の質的な評価が出来ていない。アンケートの自由記載から得られる内容が重要である。次のアンケートでは自由記載を取り入れてみてはいかがであろうか。

[委員]

30 私の経験例として、親子連れを対象としているような防火防災訓練の際、子連れの親は訓練内容に集中しづらい状況であった。しかし途中から、子供が別のスペースで遊びだして、別の保護者が見守っている状況が生まれ、子供が離れた親は集中して訓練に取り組めた事例があった。

このような経験があるので、防火防災訓練に託児サービスを用意して実地検証をやってもらいたい。または、地域の中高生に遊んでもらう方法、紙芝居などの幼児向けの防災ツールを利用して子供の相手をする消防職員の係員の準備などを検討していただきたい。

[事務局]

託児サービスを利用することでそのようなセグメントの参加を促せるか検討してみたが、実地検証の段階には持ち込めていない。もう一度検討してみたい。

[委員]

幼稚園の先生の活用はどうであろうか。先生にとっても勉強になると考えられます。

40 [委員]

非常食講座をもう一度実地検証するならば、地域組織型でやってもらいたい。防火防災訓練を継続して実施している地域では、マンネリ化や参加者の固定化という課題があり、次の展開が見つからないケースがある。それに対して非常食を取り入れてみることで、今まで地域の防火防災訓練に

出てこなかった人が出てくるのかどうかは気になる。区のメールマガジンで今までと違う人が参加した結果であったことを踏まえると、マンネリ化の脱却の一つの方向性となる可能性がある。

[事務局]

検討するようにしたい。しかし、前回の終了後にコミュニティ FM などの違う方法での広報の検証も実施してみたいという感想が生まれた。したがって、どの手法を採用するか検討する。

[議長]

非常食講座の結果報告を見ると、改善すべき点は PR だけに感じられる。中林会長の提案の切り口も検討してもらいたい。

10 実地検証は PDCA が上手く回るかということに焦点の一つが当たっているので、改善ということは、前回のものの改善をどう考えるかになる。改善の切り口が偏っているとも見える。

図 4-1 の中の「テーマ」と「ターゲット選定」は同じことを意図しているのか。

[事務局]

明確に分けられていない。

[議長]

対象が決まればニーズが類型化されて、それに対してどのような防火防災訓練をやったらよいかというテーマが決まってくると考えられる。

[委員]

PDCA サイクル意識して防火防災訓練を推進する際に、主管課ではどのようにサポートしていくのか。

20 [議長]

消防署に訓練指導のプロフェッショナルを養成していく必要もある。

[事務局]

一つ一つの事案をサポートするのは難しいが、担当者を集めた講習会など整理して考えたい。

主管課で効果があった防火防災訓練を庁内のイントラサーバーに掲出している。また、昨年度の件数が伸びている消防署、伸びていない消防署にヒアリングし、課題の抽出やアドバイスを実施している。検証結果を踏まえて、主管課が支えていく体制を敷いていきたい。

[議長]

人事異動で担当者が 2 年とかで交替することを考えると、これだけは伝えていかなければならないというコアになる資料は作っておく必要がある。

30 [委員]

消防署担当者は、他署の防火防災訓練が上手く推進されている現場を見学に行くことが望ましい。

エ 答申の構成案について

事務局より地部資料 4-5 について説明した。

[委員]

4 章の PDCA マニュアルと 6 章の PDCA マニュアルは違うものと考えてよいか。4 章は PDCA サイクルのやり方のマニュアルで 6 章は防火防災訓練のやり方のマニュアルという意味か。

[事務局]

同じものとして考えた。

40 [議長]

4 章のマニュアルを実地検証というフィールドを使って PDCA サイクルを回してマニュアルを改善していくという感じである。

[委員]

PDCA サイクルを踏まえた防火防災訓練とは何であるかという説明、なぜ評価をすることが重要か、この評価によってどのようなことが分かり改善に繋がるということを解説するマニュアルと、その結果防火防災訓練のプログラムやテキストが変わりその教え方ややり方が変わるというのは異なると考えられる。改善の仕方とその結果改善されたマニュアルが出来上がるというのは異なる。それらはどのような関係になるのであろうか。

最終的には、6章のマニュアルは色々な防火防災訓練テーマに対してそれらを上手くやるためのマニュアルとなり、それぞれの消防署でマニュアルを参考にしながら推進し、さらにマニュアルがPDCA サイクルでよりよいものやその地域に合ったマニュアルになることが望まれる。それらを突き詰めると、人事異動で初めて防火防災訓練を担当することになっても、マニュアルを見ながらまずまずの防火防災訓練から始められると思う。

[事務局]

そのようなマニュアルを目指している。今後整理して示したい。

[議長]

2章あたりで、セグメントという切り口で防火防災訓練を実施していくことの重要性を入れておかなければ、3章でセグメントに分けて分析する理由が説明つかない。

アンケート分析でセグメント別に集計をすると、そのセグメントの特徴や防火防災訓練のニーズがどのように類型されるというか分かりやすくした上で、それぞれの消防署管内がどのように該当するのか分かるようにしてもらいたい。それぞれの署所で重点的に対応すべきセグメントがどのエリアに多いかが分かるとよい。6章または参考資料に含めていただきたい。

[委員]

ターゲット別にテーマを絞って実地検証を行っているので話が拡散しにくいのでよいのだが、最終的にPDCA サイクルで考えることによって何が重要かとかどういことに気を付けないといけなとかは、それらを横断してみたときに共通してみられる現象や参加者の意見が重要であろう。テーマを絞ってそれに対して評価するのはよいが、自由記載で出てくる情報を上手く吸い取るように分析するとよい。

[事務局]

最大公約数的に収集できるように進めていきたい。

[委員]

30 実地検証の結果は興味深い、何を改善したらよいか分かりづらいので、分かりやすくしてもらいたい。

[委員]

審議会の目的で新規の参加者を増やすという項目がある。比較的参加する人の満足度を高める方に触れており新しい人をどのようにしたら惹きつけることができるかという視点が欠けている。

アンケートは新規参加率だけでよいのでは。新規参加率が高かった防火防災訓練が何であったかを後で確認する方が、検証の手間が減り、何が良かったがシンプルに分かるため、次のアクションに繋がれると思う。

40 防火防災訓練における「効果が高い」は、満足したとか楽しかったではなく、「参加者が災害時にどのように対応するかを理解できた」ことなので、そこを検証するという視点が盛り込まれるべきであろう。

(3) その他

防災部長の挨拶の後、事務局より第6回小部会の開催時期について連絡した。

(4) 閉会